



大手町いまながクリニック

院長 今永 知俊 先生

日本内科学会認定内科医総合内科専門医

日本呼吸器学会専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会専門医

北九州市小倉北区大手町 13-34

ハローパーク大手町 2F

093-562-2580

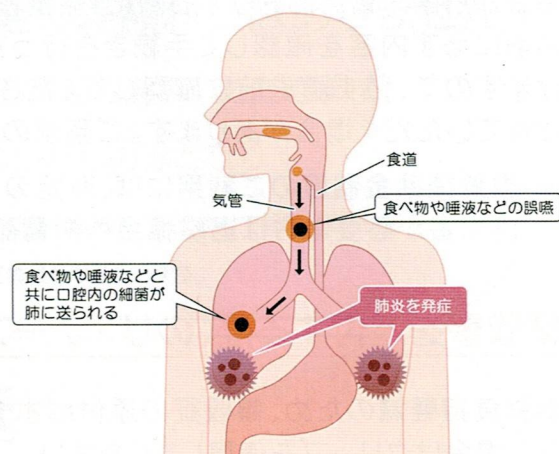
誤嚥性肺炎

誤嚥性肺炎とは

誤嚥とは、飲食物や唾液を飲み込んだときに気道(気管)に入ってしまうことです。食事中だけではなく、安静時や就寝中にも起こることもあります。誤嚥性肺炎は、誤嚥によって口の中の細菌が気管支や肺に入ることによって生じます。誤嚥性肺炎は、誤嚥の危険性の高い方に起こる肺炎と定義されています。

厚生労働省が発表した「人口動態統計月報年計」によると、誤嚥性肺炎が原因による死亡者数は2022年には5万6,000人で、日本人の死因の第6位となっています。2018年は3万8,000人でしたので、大幅に増加しており、積極的に予防することがとても重要です。

誤嚥の危険性が高くなる原因は大きく二つに分けられ、飲み込む機能が低下する、または胃や食道機能が低下することがあります。ここでは主に前者について述べていきます。



原因

1. 脳血管障害、認知症、神経疾患など

いくつかの研究をまとめたものから、脳血管障害、認知症、寝たきりが誤嚥性肺炎に高頻度に併存していることが示されています。脳卒中といった脳血管障害や神経系疾患などにより、神経伝達物質が欠乏することで、咳反射(むせ: 咳をして異物を気道から出す動き)や嚥下反射(飲食物を飲み込む動き)などの神経活動が低下して起こります。

2. 咳反射や嚥下機能の低下

加齢による喉の筋力の低下と唾液の分泌が減ることによって、嚥下反射や喉反射が衰え、誤嚥を起こしやすくなります。食事の時によくむせるようになったら注意が必要です。また「咳払い」を頻繁にする人も要注意です。咳反射が弱まっているために、一度の咳では済まず、繰り返してしまうのです。

3. 口腔内の環境

口腔内の清潔が十分に保たれていないと、口腔内で原因となる細菌が増殖し、その菌が誤って気管から肺に入ることによって発症します。原因菌の多くは口腔内にある細菌と言われています。

4. 免疫機能の低下

身体活動量の低下とそれに伴う食事量の減少による栄養状態の低下が免疫機能の低下を招き、発症に大きく関与します。

症状

発熱、咳、膿のような痰が肺炎の特徴です。しかし、高齢者の場合はこのような典型的症状が見られないことも多く、気づいたときには肺炎が進行していたというケースもあります。なんとなく元気がない、食欲がない、のどがゴロゴロとなる、寝ている時に急に咳き込む、などの症状がみられることが多いことも誤嚥性肺炎の特徴です。また、体重が減った、尿量が減ったなどの変化が現れることもあります。

